

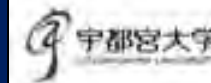
資料目次  
(設置の趣旨等を記載した書類)

資料1	地域創生科学研究科:全体像(設置の趣旨・必要性)①	……	1
	地域創生科学研究科:全体像(設置の趣旨・必要性)②	……	2
資料2	大学改革の概要:目指す方向と学部改革&大学院改革	……	3
資料3	地域(コミュニティから国・世界)	……	4
資料4	研究科の“地域”と学部の関係	……	5
資料5	課題解決に必要な社会デザインとイノベーションの教育研究領域とは	……	6
資料6	管理運営体制(教員組織, 大学院運営管理, 人事, 点検・評価の一元化)	……	7
資料7	教教分離の組織図	……	8
	学長ガバナンスによる制度改革	……	9
資料8	研究科の組織構成:旧専攻と新専攻	……	10
資料9	理念, 育成する人材像, 養成する能力	……	11
資料10	要望書(栃木県, 宇都宮市, 公益社団法人栃木県経済同友会)	……	12
資料11	研究科の構成と学位	……	15
資料12	地域創生科学研究科:社会デザイン科学専攻…学位プログラム	……	16
	社会デザイン科学専攻:8学位プログラムの必要性	……	17
資料13	地域創生科学研究科:工農総合科学専攻…学位プログラム	……	18
	工農総合科学専攻:8学位プログラムの必要性	……	19
資料14	研究科・専攻:教育の3方針	……	20
資料15	学位プログラム:教育の3方針①～⑧	……	21
資料16	地域創生科学研究科:教育課程の基本構成	……	29
資料17	教育課程編成の特色	……	30
資料18	地域創生科学研究科:科目構成と実施体制	……	31
資料19	教育課程の基本構成①		32
	教育課程の基本構成②		33
	教育課程の基本構成③		34
資料20	「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」で取り上げる課題について	……	35
資料21	授業内容・授業計画等(シラバスの一部)		
	「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」	……	36
	「現代社会を見通す:生命と感性の科学」	……	37
	「グローバルな視座を養う」	……	38
	「アカデミックコミュニケーション」:授業内容・授業計画等(シラバスの一部)	……	39
資料22	倫理観の養成	……	40
資料23	指導体制:デュアル副指導	……	41
資料24	カリキュラムマップ・カリキュラムツリー:社会デザイン科学専攻		
	社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム	……	42
	社会デザイン科学専攻 農業・農村経済学プログラム	……	44
	社会デザイン科学専攻 建築学プログラム	……	46
	社会デザイン科学専攻 土木工学プログラム	……	48
	社会デザイン科学専攻 農業土木学プログラム	……	50
	社会デザイン科学専攻 グローバル・エリアスタディーズプログラム	……	52
	社会デザイン科学専攻 多文化共生学プログラム	……	54
	社会デザイン科学専攻 地域人間発達支援学プログラム	……	56

資料目次  
(設置の趣旨等を記載した書類)

資料25	カリキュラムマップ・カリキュラムツリー:工農総合科学専攻		
	工農総合科学専攻 光工学プログラム	.....	58
	工農総合科学専攻 分子農学プログラム	.....	60
	工農総合科学専攻 物質環境化学プログラム	.....	62
	工農総合科学専攻 農芸化学プログラム	.....	64
	工農総合科学専攻 機械知能工学プログラム	.....	66
	工農総合科学専攻 情報電気電子システム工学プログラム	.....	68
	工農総合科学専攻 農業生産環境保全学プログラム	.....	70
	工農総合科学専攻 森林生産保全学プログラム	.....	72
資料26	教員異動表	.....	74
資料27	専任教員年齢構成状況	.....	75
資料28	国立大学法人宇都宮大学職員就業規則	.....	76
資料29	世界的な競争力を持つ特長的な分野:光工学分野	.....	87
資料30	世界的な競争力を持つ特長的な分野:分子農学分野	.....	88
資料31	地域科学技術実証拠点整備事業 :栃木県「とちぎ産業成長戦略」を支える工農技術・ロボティクス実証推進拠点	.....	89
資料32	教科シラバス掲載例		
	教科シラバス掲載例(社会デザイン科学専攻)	.....	90
	教科シラバス掲載例(工農総合科学専攻)	.....	91
資料33	学修カレンダーとマネジメント	.....	92
資料34	履修指導・研究指導の方法など	.....	93
資料35	履修モデル		
	社会デザイン科学専攻 コミュニティデザイン学プログラム	.....	94
	社会デザイン科学専攻 農業・農村経済学プログラム	.....	95
	社会デザイン科学専攻 建築学プログラム①, ②	.....	96
	社会デザイン科学専攻 土木工学プログラム	.....	98
	社会デザイン科学専攻 農業土木学プログラム	.....	99
	社会デザイン科学専攻 グローバル・エリアスタディーズプログラム①, ②	.....	100
	社会デザイン科学専攻 多文化共生学プログラム①, ②	.....	102
	社会デザイン科学専攻 地域人間発達支援学プログラム①~③	.....	104
	工農総合科学専攻 光工学プログラム	.....	107
	工農総合科学専攻 分子農学プログラム	.....	108
	工農総合科学専攻 物質環境化学プログラム	.....	109
	工農総合科学専攻 農芸化学プログラム	.....	110
	工農総合科学専攻 機械知能工学プログラム①, ②	.....	111
	工農総合科学専攻 情報電気電子システム工学プログラム①, ②	.....	113
	工農総合科学専攻 農業生産環境保全学プログラム	.....	115
	工農総合科学専攻 森林生産保全学プログラム	.....	116
資料36	大学院学位論文評価基準(修士課程)	.....	117
資料37	国立大学法人宇都宮大学ヒトを対象とする研究に関する倫理規程	.....	118
資料38	修士論文を課さないコースワークの修了要件	.....	124
資料39	学部と研究科の接続	.....	125
資料40	時間割表		
	社会デザイン科学専攻 時間割表	.....	126
	工農総合科学専攻 時間割表	.....	136
資料41	管理運営体制:学位プログラムのPDCA	.....	146

# 地域創生科学研究科：全体像（設置の趣旨・必要性）①



【大学の目標（第3期中期目標）】宇都宮大学は、「人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する」と理念に掲げ、「活力ある持続可能な地域社会の形成」、「グローバル社会への対応」、「イノベーションの創出」を基本方針としている。

【人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する理念とは】世界中のあらゆる地域における人々が安全で豊かな生活を営むために現代社会の課題の解決につながる新たな価値観を生み出し、「持続可能な豊かな地域社会を創る」人材を養成することである。

【現代社会の課題】高齢化・少子化に対応した社会の創生，持続的な経済成長，都市と農村の地域格差，貧困問題，ジェンダーや差別・人権問題，資源・環境問題，産業の技術革新，国内・国家間の格差，紛争問題，人格の形成や自立心及び判断力などの人間性を育む，地域や他人との関わり・つながりを尊重できる個人を育む，など

＜従来の教育研究では解決できない課題&新しいニーズに対応した課題がある：その解決のために何が必要か>

高齢化・少子化に対応した社会の創生：防災に強い生活ネットワークとしてのコミュニティの形成，高齢者の日常生活を支える技術開発，など  
都市と農村の地域格差：都市・農村が一体化した開発計画の策定・実施，農業の技術革新，働く場の流動性を高める制度と基盤の整備，など  
資源・環境問題：省資源・循環型の技術開発，地域社会の意識の形成・教育，先進国と途上国の連携，世界の協働による技術開発，など  
産業の技術開発：AIと連携したロボティクスの開発，技術開発政策の策定と人材育成，新産業に結びつく革新的技術開発，など  
紛争問題：多文化共生社会の形成，国連の限界とNPOの活用，後発国の生活・経済成長を支える技術開発，情報格差の是正，など  
人格形成など人間性を育む：個の多様性の理解と協働の必要性，世代間のコミュニケーションの推進，人間の感性と技術開発，など

新しい社会の結びつきを創造しなければ，課題は解決できない  
(下線部分)

課題解決のためには，個人間・地域間・国家間の結びつき，社会制度や政策，倫理観や価値観の人格形成，などが深く関わっており，従来の古い枠組みでなく，課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造（デザイン）する力を養成する必要がある。（社会デザインの必要性）

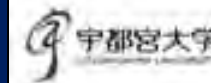
新しい発想・着眼からの技術革新がなければ，課題は解決できない

課題の解決のためには，新しい発想・着眼から，生活支援や地域の経済成長，資源・環境問題などの人々の日常生活の質を向上させる技術の開発や，経済のパイを広げる技術開発など，資源・環境・生活・経済を支えるイノベーションを創造する力を養成する必要がある。（イノベーションの必要性）

社会デザインとイノベーションの創造は，持続可能な豊かな地域社会の創出にとって重要な教育研究のテーマである

従来の専門分野に絞られない幅広い学術分野が連携・融合しなければ，新しい社会デザインやイノベーションを創造することはできない。

# 地域創生科学研究科：全体像（設置の趣旨・必要性）②



地域の“知”の拠点として、“知”の再構築：従来のように単独の学術分野での特化・専門化・細分化で解決することには限界があり、課題解決のために新しい着眼・発想・手法・技術が必要である。そこで、専門領域の障壁を低くして境界領域・学際領域の学術を発展させる。

## ＜実現に必要なものと実績＞

実現に必要なもの：

- 持続可能な地域社会の創生に関わる高度な学際的思考力と実践力を養成するためには、従来の学術分野・研究科の枠に捉われないで、分野間の連携・融合
- 分野間の連携・融合を実効性あるものにするための実施体制の確立
- 地域課題の分析・調査や実践力の養成を支える地域連携

宇都宮大学の実績：

- 5学部（地域デザイン科学部、国際学部、教育学部、工学部、農学部）の教育資源（文理の幅広い教員構成、実験設備等の教育研究環境、地域連携の実績、など）と教員組織の一元化を実施（教教分離）
- アクティブラーニングなど実践的な教育とFD等の実績
- 産官学金との豊富な地域連携の実績

社会デザインとイノベーションに関する教育資源を有し、実践的な教育方法を積極的に活用し、学際的な連携・融合を図るための実績を有している本学において、「持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献する」教育研究を行うことができる

## 1 研究科による連携・融合 「地域創生科学研究科」を設置

（2専攻：「社会デザイン科学専攻」、「工農総合科学専攻」）

「地域創生科学研究科」の理念：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進する。

育成する人材像：持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。

## 第3期中期目標

宇都宮大学は、「**人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する**」という理念を掲げて、社会の中核を担う人材の育成と知の創造・発信という国立大学法人としての使命を果たすために、**栃木県の多様で豊かなフィールドを活かした実践的な教育・研究**を推進することによって、着実に実績を重ねてきた。今期は、「**活力ある持続可能な地域社会の形成**」、「**グローバル化社会への対応**」、「**イノベーション創出**」を基本方針とおき、「**行動的知性**」を備え広く社会の発展に貢献する人材の育成、独創的な特色ある研究による新たな「知」の創造、地域やステークホルダーとの双方向性を高めた活動を積極的に進め、**地域の知の拠点としての機能を一層強化する**。(中略) 組織や学生・教職員それぞれが、主体的に挑戦し (Challenge) , 自らを変え (Change) , 社会に貢献する (Contribution) という**3C精神をモットー**として、躍動感溢れ進化を続ける大学を目指す。

## 重点支援①

「主として、**人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組**とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、**強み・特色のある分野で世界ないし全国的な教育研究を推進**する取組等を第3期の機能強化の中核とする」



- 戦略①：地域の“知”の拠点形成
- 戦略②：地域人材育成の基盤強化
- 戦略③：グローバルリーダーの育成
- 戦略④：地域イノベーションの創出
- 戦略⑤：ガバナンス改革

## 【地域の変革をリードする「知の拠点」形成】

Vision1 「行動的知性」の育成

Vision3 地域の強みを発揮するイノベーションを創出

Vision2 異分野間の連携で柔軟な発想による新たな知を創造

Vision4 構成員一人ひとりの個性を活かした協働を推進

### 学部改革

**3C精神 (Challenge, Change, Contribution) の醸成と地域活性化の拠点機能を強化**

- **組織改革の推進**：「地域デザイン科学部」の設置 (H28年度) , 国際学部改組 (H29年度) , 工学部改組 (H31年度予定) , 教教分離 (H28年度)
- **「行動的知性」の育成**：AP事業や新学部設置を契機として、アクティブ・ラーニングの全学的推進
- **地域連携による教育研究の活性化**：COC事業や「地域イノベーション戦略支援プログラム」等を活用した地域志向教育研究の強化
- **グローバル教育の強化**：基盤教育での実践的英語教育の充実、トビタテ留学JAPAN等を活用した留学・語学研修などを拡充
- **教育の質保証**：ディプロマポリシーに対応した能力別の達成度を可視化しチャート化するなど、実質化・見える化を推進

&

### 大学院改革 (平成31年度)

- **「地域創生科学研究科」の設置**：既存の4研究科を1研究科に再編して、社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻からなる研究科を設置
- **理念**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに、特長的で強みのある研究を推進  
 (“持続可能な豊かな地域社会の創生”と“社会デザインとイノベーションの創造”)
- **育成する人材像**：持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成
- **高度な科学リテラシー**：21世紀の複雑化した課題を解決するために必要な素養を身に付けるために、研究科に共通の科学リテラシー (「地域創生リテラシー」) を配置して、学際的思考力と実践力を養成

**改革を支えるガバナンス改革**：学内資源の再配分とマネジメント & 弾力的な教員組織として教教分離の確立と実質化 & 人事調整会議による全学的人事マネジメントなど



“地域とは、地理的・物理的意味を単位とする特定の空間や範囲を示すものではない。地域とは、問題意識に応じて設定され、可変的で多様な性格を有するもので、「ローカル／ナショナル／リージョナル／グローバル」の連結関係のなかで構成される。(身近なコミュニティから国・世界規模まで広がりを持っている)”

人間開発報告書(2016: 国連開発計画UNDP)では、普遍的な人間開発に対する大きな障害を取り除き、平和と繁栄に実現に向けて努力するには、グローバルな視点と地域に根差した洞察が必要と謳っており、本研究科の理念及び地域概念と通底した捉え方が示されている。

コミュニティ ←

国

→ 世界

専攻  
社会デザイン科学

主に、栃木県をフィールドとして社会デザインの教育研究(ソフトウェア)

「コミュニティデザイン学プログラム」, 「農業・農村経済学プログラム」

「地域人間発達支援学プログラム」

主に、栃木県をフィールドとして社会デザインの教育研究(ハードウェア)

「建築学プログラム」, 「土木工学プログラム」

「農業土木学プログラム」

国内外をフィールドとして社会デザインの教育研究(ソフトウェア)

主に、海外をフィールドとして社会デザインの教育研究(ソフトウェア)

「グローバル・エリアスタディーズプログラム」

専攻  
工農総合科学

栃木県のものづくり, 食料・農業・環境を基盤としながら, イノベーションの教育研究

「物質環境化学プログラム」, 「農芸化学プログラム」

「機械知能工学プログラム」, 「情報電気電子システム工学プログラム」

「農業生産環境保全学プログラム」

「森林生産保全学プログラム」

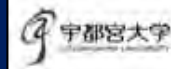
光工学と分子農学を基盤に, 世界に広がるオプト・バイオサイエンスの教育研究  
「光工学プログラム」, 「分子農学プログラム」

栃木県内での実践的な取組を核としながら, 身近なコミュニティから国・世界に広がる教育・研究を推進

地方創生に資する科学イノベーションに関して, 地方の個性や強みを踏まえながら“一つの地域で閉じるのではなく, 広域的, 全国的あるいはグローバルな視点を持ち, ネットワークを生かした情報共有等を行うことにより, ノウハウ, 人材等の資源の広域的な活用を図ること。”が指摘されている。(内閣府「地方創生に資する科学技術イノベーション推進タスクフォース」より)

持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献

# 研究科の“地域”と学部の関係



**【大学の目標（第3期中期目標）】**宇都宮大学は、「人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する」と理念に掲げ、「活力ある持続可能な地域社会の形成」、「グローバル社会への対応」、「イノベーションの創出」を基本方針としている。

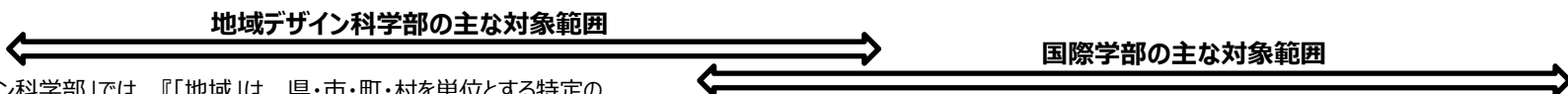
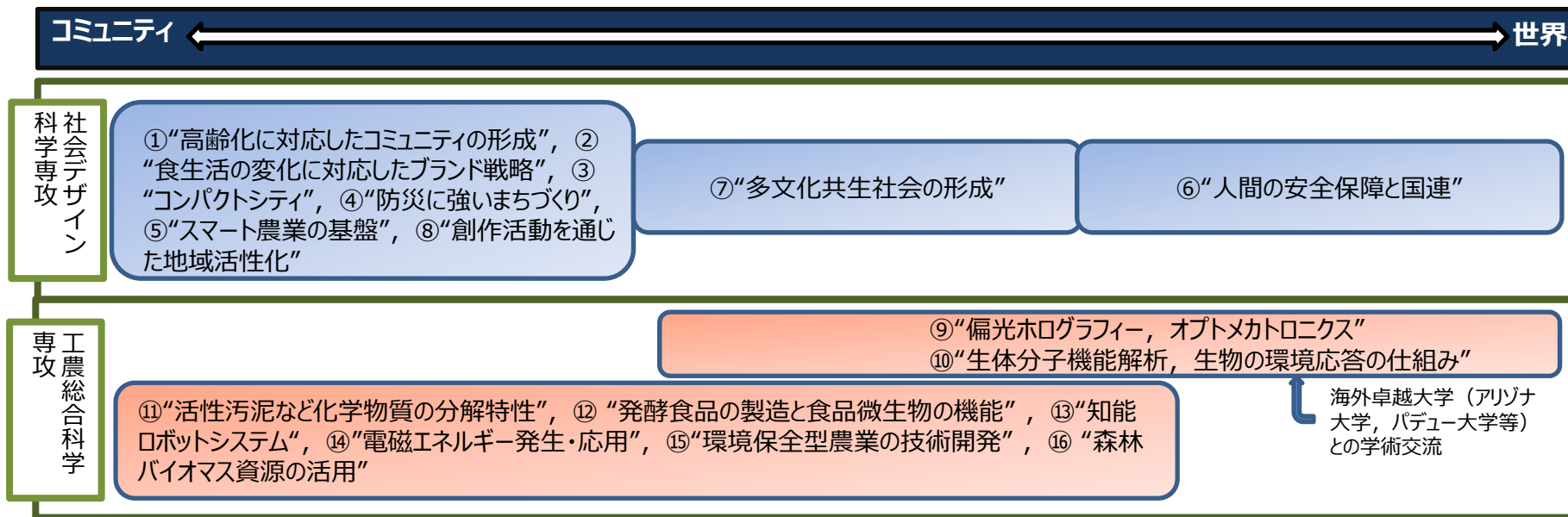
**研究科の理念：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、**社会デザインとイノベーションの創造を支える**高度な人材を育成するとともに、**特長的で強みのある研究を推進する。**

**研究科の地域：**“地域とは、地理的・物理的意味を単位とする特定の空間や範囲を示すものではない。地域とは、問題意識に応じて設定され、可変的で多様な性格を有するもので、「ローカル／ナショナル／リージョナル／グローバル」の連結関係のなかで構成される。”

## 専攻・学位プログラムにおける具体的な課題 (技術開発分野)

- ①コミュニティデザイン学プログラム, ②農業・農村経済学プログラム, ③建築学プログラム, ④土木工学プログラム, ⑤農業土木学プログラム, ⑥グローバル・エリアスタディーズプログラム, ⑦多文化共生学プログラム, ⑧地域人間発達支援学プログラム, ⑨光工学プログラム, ⑩分子農学プログラム, ⑪物質環境化学プログラム, ⑫農芸化学プログラム, ⑬機械知能工学プログラム, ⑭情報電気電子システム工学プログラム, ⑮農業生産環境保全学プログラム, ⑯森林生産保全学プログラム

5



「地域デザイン科学部」では、『「地域」は、県・市・町・村を単位とする特定の地域を示すものではなく、「ハードウェア（環境・建築・社会基盤）」、「ソフトウェア（制度と社会資源・文化）」、「つながり（地域ニーズの把握・分析・合意形成やハード・ソフトの組み合わせ方）」が重層的に結びついて対象を示している』（設置計画書より引用）と定義している。

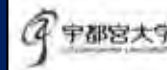
教育研究の課題の多くがコミュニティから国内を対象としている。

「国際学部」では育成する人材像に関して、『世界の様々な地域の国際的分野で活躍するために、多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えて、チャレンジ精神や行動力等を兼ね備えた「グローバルな実践力」を持った人材を育成します。』（学部HPより引用）としており、地域は課題によって多様に変化するものとして捉えている。

教育研究の課題の多くが国から世界を対象にしている。

**本学の理念「人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する」に則して、「地域創生科学研究科」、「地域デザイン科学部」、「国際学部」の「地域」はいずれもコミュニティから世界まで幅広い範囲を想定している。但し、学部の教育研究の課題が主として対象とする地域には差が見られる。**

# 課題解決に必要な社会デザインとイノベーションの教育研究領域とは



**【現代社会の課題】**高齢化・少子化に対応した社会の創生，持続的な経済成長，都市と農村の地域格差，貧困問題，ジェンダーや差別・人権問題，資源・環境問題，産業の技術革新，国内・国家間の格差，紛争問題，人格の形成や自立心及び判断力などの人間性の育成，地域や他人との関わり・つながりを尊重できる個人の育成など

課題解決のためには，個人間・地域間・国家間の結びつき，社会制度や政策，人間形成，などが深く関わっており，従来の古い枠組みでなく，課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造(デザイン)する力を養成する必要がある。**(社会デザインの必要性)**

課題の解決のためには，生活支援や地域の経済成長，資源・環境問題などの人々の日常生活の質を向上させる技術の開発や，経済のパイを広げる技術開発など，資源・環境・生活・経済を支えるイノベーションを創造する力を養成する必要がある。**(イノベーションの必要性)**

## 教育研究上の課題

- **<豊かな都市・農村の社会，生活の形成>**：高齢者にやさしい都市の実現，豊かな食生活の実現，豊かなライフステージの実現など
- **<国際問題の解決>**：紛争や差別のない世界を実現，貧困の克服，国際的環境問題の克服など
- **<豊かな生活，経済，まちづくりを支える社会基盤の形成>**：防災に強い生活基盤の実現，産業を支える生産基盤の整備，高齢者に居住空間の実現，農村景観の維持・発展など

- **<オプトバイオ>**：本学の強み特長的な教育研究分野である光工学と分子農学の融合，光と動植物細胞・遺伝子に関連するイノベーションの創造など
- **<資源，環境，生活，経済>**：持続可能性に関連するイノベーションの創造，豊かな生活，経済を実現するイノベーションの創造など
- **<農業，林業>**：豊かな食生活，農業，林業の持続的成長に関連するイノベーションの創造など

**【社会デザイン科学専攻の目的】**現代社会の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア（建築，国土保全，環境等）のデザインについて教育研究を推進

**【工農総合科学専攻の目的】**現代社会の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために，工学分野と農学分野に関するものづくり，食料，農林業，環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進

「社会デザイン」と「イノベーション」の創造を両輪として，一つ一つ課題の解決に資する人材が育成されることによって，持続可能な豊かな地域社会の創出に大きく貢献する



## 学長ガバナンスによる管理運営体制の一元化

### 【教員組織】教教分離

- 学生が所属し教育プログラム(学部)と学位プログラム(大学院)の管理運営, 学生指導を行う“教育院”と, 教員が所属し教育・社会活動等の基盤である研究活動を担う“学術院”に分離した。
- 学術院の教員組織は学術分野等による細分化はしないで, 障壁のない組織となっており, 弾力的に異分野間の連携・融合を進めることができる。(多くの大学では, 教員組織を細分化しており, 従来の組織間の障壁が実質的に残っている)

### 【大学院運営管理】

- 研究科長(学長任命)の下に, 「研究科代議員会」と「専攻教授会」を置き, 全学的に管理運営を行う。

#### 「研究科代議員会」

- 構成: 研究科長, 研究科長補佐, 学位プログラム長(16)の専任教授(研究指導の資格を有する教員)
- 役割: 次の事項について審議し学長の意思決定を補佐するとともに, 研究科の管理運営を担う。また, 専攻教授会から付託された事項について審議し, 代議員の議決を持って専攻教授会の議決とすることができる
- 審議事項: 研究科の管理運営に関する事項, 研究科の将来計画に関する事項, 専攻教授会から付託された事項, その他研究科に必要な事項

#### 「専攻教授会」

- 構成: 指導教員資格を有する専任教員
- 必要に応じて, 「研究科代議員会」に, 審議・議決を付託する。
- 審議事項: 授業科目の種類及び編成に関する事項, 学生の入学, 休学, 転学, 退学, 及び修了に関する事項, 学位論文の審査・最終試験に関する事項, 学生の厚生補導及びその身分に関する事項, その他必要な事項

### 【人事調整会議】

- 平成27年度から, 従来の学部教授会が主導する教員人事体制から, 学長が議長を務める「人事調整会議」で教員人事の選考を全学で一括してマネジメントするように改革した。基本的に, 教員人事選考の流れは, 次のとおりである。
- ・ 部局長から, 学長に教員任用計画書の提出
- ・ 人事調整会議で, 教員任用計画書を審議・承認
- ・ 人事調整会議の下に, 選考委員会を設置
- ・ 選考委員会が選考の結果を人事調整会議に報告
- ・ 人事調整会議で, 選考委員会の説明に基づき審査
- ・ 教授会で教育研究業績を審査
- ・ 教育研究評議会の議を経て, 学長が決定

### 【点検・評価の全学体制】

- 本学は, 国立大学法人宇都宮大学評価規程第3条に基づき「点検・評価委員会」を設置して。
- そして, 本学は, 役員・副学長及び学長特別補佐で構成する会議である「学長打合せ」を週一度, また同打合せの構成員に学部長・研究科長を加えた「企画戦略会議」を月一度開催しており, 点検・評価結果はそれら会議において随時報告され, 情報の共有を図るとともに必要に応じて随時改善策などが検討される。このように, 本学においては, 点検・評価を全学的に機動的に行う体制となっているところが特長である。

# 教教分離の組織図

壁を低くした柔軟な組織 ⇒ 新分野・強みの創生強化, 大学院改革



学長

## 教育院(教育組織:学部)

教育院は、教育プログラムの管理運営、学生指導等を行う、教育組織である。

学生は学部・学科等に所属し、所定の教育プログラムを修了することによって、学位(学士)を取得する。

○×学部 教育Pに必要な教員ポイントを配分学部ごとに、教授会を組織する

○○学科 ≡ 教育プログラム

×○学科 ≡ 教育プログラム

≡ 教育プログラム

基盤教育 ≡ 基盤教育科目

従来よりも弾力的に他分野の協働(担当教員)を得て教育プログラムのPDCAを図る  
⇒ 受験生や学生ニーズ・社会的ニーズに対応した魅力的な教育課程の持続的発展

## 全学センター等

○○センター, △△センター, ○×機構, …

教授会: 教育プログラムの管理運営や学生指導等に必要事項を審議  
人事調整会議の下で、教育プログラムに必要な人事を発議

## 学術院(教員組織)

学術院は、教員が所属する教員組織であり、教育・社会活動等の基盤である研究の活性化を担う。

教員人事は、学長・人事調整会議の下に行う(現行と同じ)

← 責任教員 ← 担当教員

協働による研究機能の強化(学際分野・新学術分野の創成など)

## 教育院(教育組織:大学院)

教育院は、学位プログラムの管理運営、学生指導等を行う、教育組織である。

学生は研究科・専攻に所属し、所定の学位プログラムを修了することによって、学位(修士、博士)を取得する。

学位プログラム ≡ ◎△専攻

学位プログラム ≡ △□専攻

学位プログラム ≡ ×○専攻

学位プログラム ≡ ≡

文理・分野横断的・複合的分野の新設  
⇒ 社会的ニーズ: 新しい課題を解決するための人材育成  
⇒ 学生ニーズ: 修了した学士課程から新しい分野へ進学し専門知識等が修得できる(修士・博士への選択の幅が広がる)  
課題: 定員未充足  
⇒ 定員配分の見直し, 博士後期課程の分野拡充。

### 【目的】

- 1) 教職員の定員削減というこれまでにない厳しい状況ではあるが、中規模の国立大学としての特長、すなわち、一通りに分野がそろっていることや構成員の顔が互いによく見える規模の大学であるというアドバンテージを活かし、全学的に連携・協働した教育・研究・社会貢献を実施しやすく、かつ機動性の高い組織に再構築する。
- 2) 教員は従来の分野を超え全学での基盤教育や教育プログラムや学位プログラムを支え合い、また、学部や学科、研究室等の壁をなくして、異分野融合的研究を推進する体制を推進する。
- 3) 第3期中期計画期間で実施する大学院改革条件整備をする。= 従来の研究科を超えた学位プログラムの再構成

弾力的な組織への改革 ⇒ 文理・分野融合の実質化 & 新領域の創生 & 持続的な革新

# 学長ガバナンスによる制度改革



## 【職階バランスの改善】

○ 平成24年度に教員ポイント制による人員管理を導入し、これまでできなかった**教員の職階バランスの見直しや若手教員の積極的な採用が可能**となり、平成28年度には職階のアンバランス解消と人件費を維持しつつ教員増（17名）を図った。

## 【学内資源の再配分】

○ 学長のトップマネジメントとして、学長裁量ポイント（平成28年度は全教員ポイントの6.5%）を確保し、組織改革等を行い、**教育研究の強みを伸ばしうる、あるいは社会からの強いニーズがあると学長が判断した教員ポストに活用するため、学長裁量ポイントを配分し、機能強化を図った。**

### 【主な機能強化】

- ・教員養成力の強化（実務家教員等の任用）⇒教職大学院（H27設置）
- ・光工学分野の強化 ⇒大学院先端光工学専攻（H27設置）
- ・グローバル人材養成力の強化（県と連携した人材養成プログラムの推進）⇒とちぎグローバル人材育成プログラム（H26開講）
- ・新学部の設置 ⇒地域デザイン科学部（H28設置）

## 【教員人事の一元化】

○ 平成27年度から、従来の学部教授会が主導する教員人事体制から、学長が議長を務める「**人事調整会議**」で**教員人事の選考を一括してマネジメント**するように改革した。教員人事の選考を一括する体制は先駆的な取組であり、職階バランスの改善や若手教員の積極的な採用を進めた結果、平成24年3月と平成29年3月の比較で教授の割合が5.7%減少し、准教授・講師・助教の割合が5.7%増となっている。

## 【学長による学部長の指名】

○ 平成27年度から、**学部長等**の選考方法を見直し、従来の教授会による選考を廃止し、**学長による指名制**を導入した。これにより、学長のリーダーシップのもと、戦略的に大学の組織及び運営体制を整備することができた。

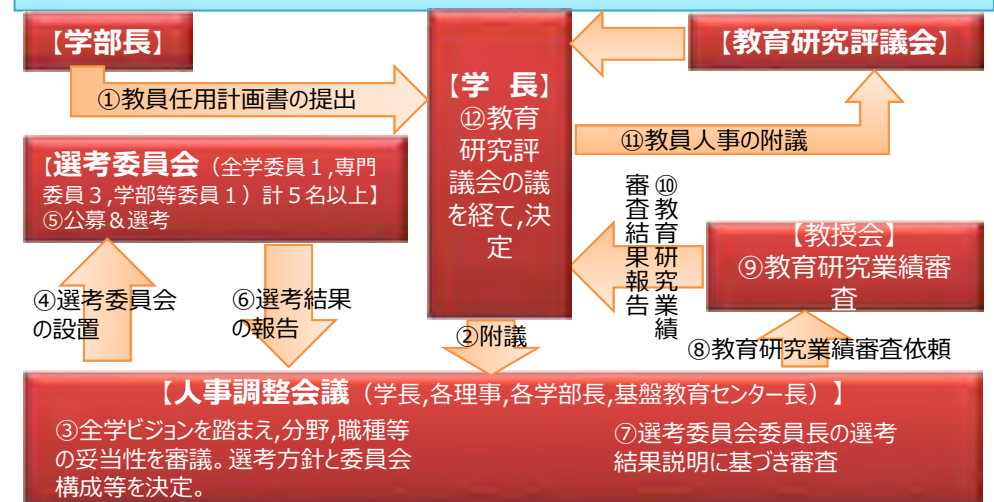
## 【学長裁量経費による機能強化】

○ 各学部等における機能強化に向けた取組、グローバル化の推進や組織改革等を積極的に推進するため、平成27年度には学長裁量経費により、「改革推進経費（11,000千円）」を各学部及び基盤教育センターに配分するとともに、「教育研究強化推進経費（23,225千円）」を職階に応じ全教員に対して配分し**教育研究を強化推進するなど様々な取組を実施した。**

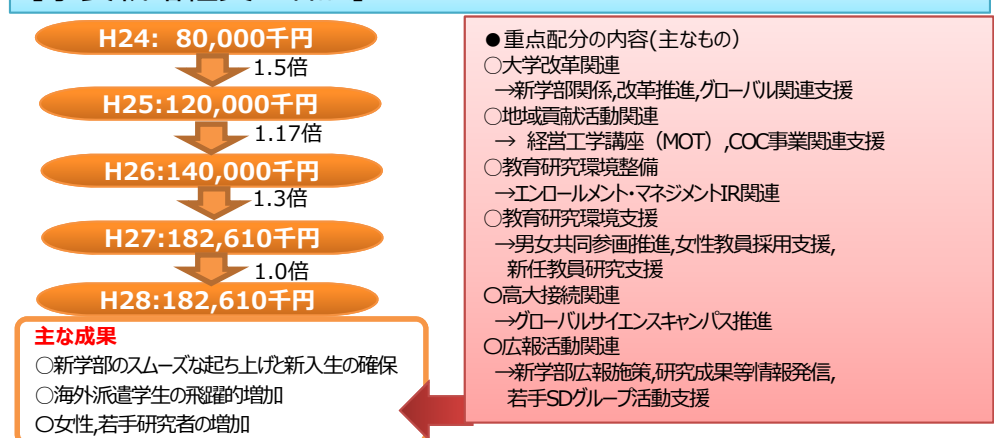
## 【職階バランスの改善】

職階	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H23→H28
教授	49.4%	49.3%	47.5%	45.0%	44.0%	43.7%	▲5.7%
准教授	35.3%	35.1%	37.2%	38.2%	42.3%	42.0%	6.7%
講師	5.7%	5.9%	5.7%	6.5%	4.2%	5.0%	▲0.7%
助教	9.6%	9.7%	9.6%	10.3%	9.5%	9.3%	▲0.3%

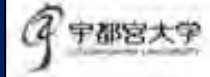
## 【改革後の教員選考フロー】



## 【学長戦略経費の増額】



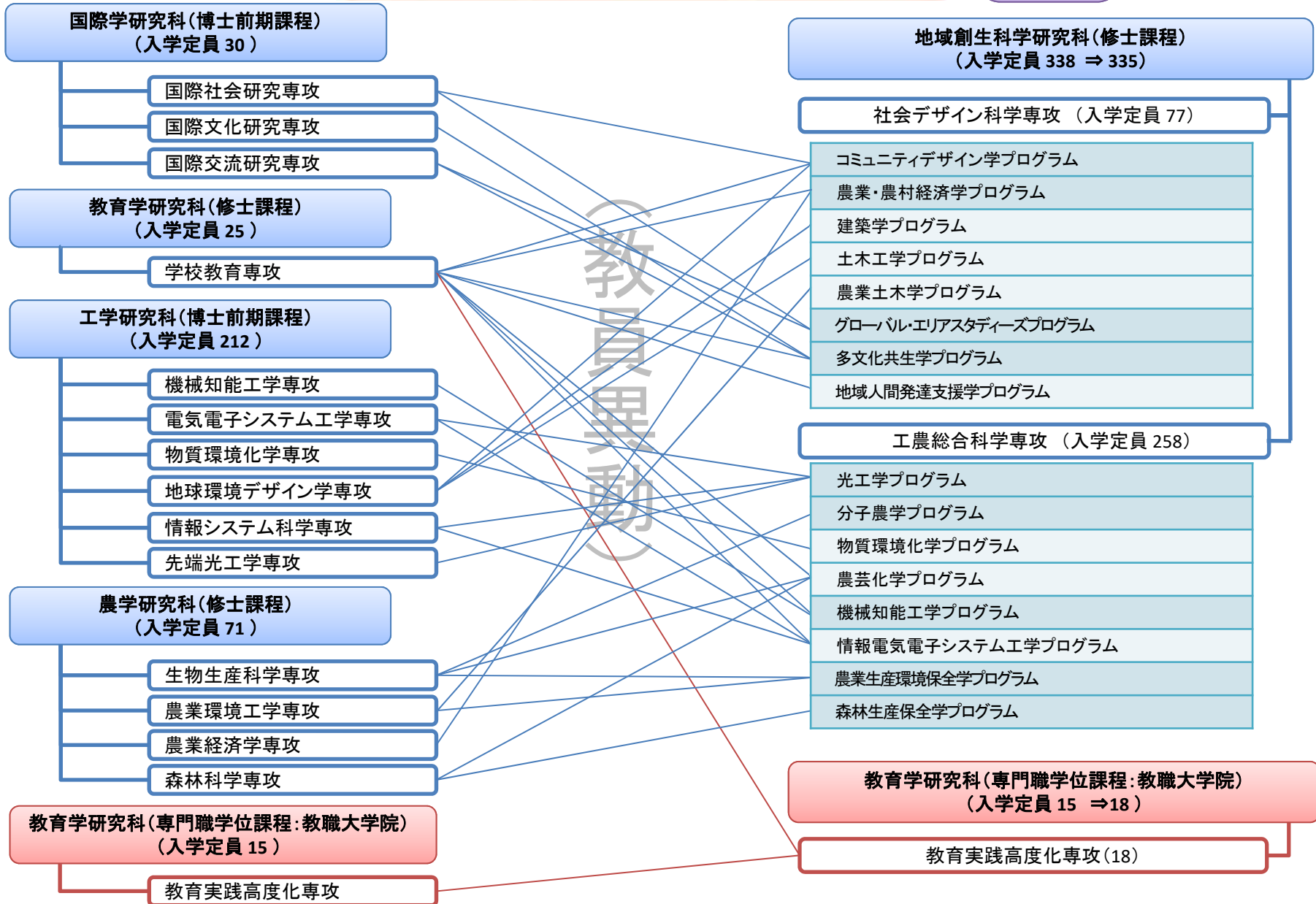
# 研究科の組織構成：旧専攻と新専攻 【地域の改革をリードする「知の拠点」形成】



旧

4 研究科15専攻から → 2 研究科 3 専攻16学位プログラムへ

新





## 地域創生科学研究科

●理念：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために，社会デザインとイノベーションの創造を支える高度な人材を育成するとともに，特長的で強みのある研究を推進する。

（“持続可能な豊かな地域社会の創生”と“社会デザインとイノベーションの創造”）

●育成する人材像：持続可能な豊かな地域社会を創生するために，社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて，学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。

●養成する能力：3C精神（主体的に挑戦しChallenge，自らを変えChange，社会に貢献するContribution）+1（Creation：創造的思考力・実践力）を基本的考えとして，社会デザインとイノベーションに関する高度な専門的知識・技術，学際的な思考力と実践力及び分野間の連携等を実践するために必要な根源的視野，俯瞰的視野，コミュニケーション能力，行動力等を養成する。

**社会デザイン科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア（建築，国土保全，環境等）のデザインについて教育研究を推進する。

“まちづくり（社会システム）”，“まちづくり（建築・土木・環境）”，“グローバル化”，“人間発達”，の観点から4つの教育研究領域がある。

- まちづくり（社会システム）の観点から，都市農村におけるソフトウェア（コミュニティ，社会制度，政策等）のデザインについて教育研究
- 工学技術を基盤とするまちづくり（建築，土木，環境）のハードウェアのデザインについて教育研究
- グローバル社会の観点から，国際開発・国際協力等や，多文化共生に関するデザインについて教育研究
- 人・ヒトの思考，生活，健康等の観点から，人間の発達・成長の支援に関するデザインについて教育研究

**工農総合科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために，工学分野と農学分野に関するものづくり，食料・農林業，環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。

“オプト・バイオ”，“化学”，“機械工学”，“情報電気電子工学”，“農学”の専門性から5つの教育研究領域がある。

- 広く世界の先端研究を視野に入れて，光工学と分子農学を基盤として，光工学の先端技術の創造・発展に関する分野と，生命・食糧・環境を分子レベルから構造，機能，生成等について科学する分野を発展させながら，光を媒介として両分野が連携するオプト・バイオ分野について教育研究
- 物質化学と生命化学を基盤に，工業生産のマクロレベルから微生物利用等のミクロレベルまで幅広い化学技術について教育研究
- あらゆる産業の基幹技術である機械工学を基盤に，電子・制御等との境界領域も視野に入れて，機械技術の高度化・知能化について教育研究
- 電気・電子分野と情報・通信分野を再編することによって，“ヒト”と“モノ”をつなぐ先端システムの工学技術について教育研究
- 農学における生物生産，農業環境工学，森林科学の分野を基盤にして，農林業産業を支える先端農学について教育研究

国立大学法人宇都宮大学長 石田 朋靖 様

栃木県知事 福田 富一



地方創生に向けた宇都宮大学大学院の充実強化に関する要望書

栃木県政の推進につきましては、日頃から特段の御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。我が国の人口は、今後長期的に減少し、少子高齢化が急速に進むことが予測されており、県では、喫緊の課題である人口減少の克服と将来にわたる地域活力の維持を図り、とちぎの地方創生を実現するため、「とちぎ創生15戦略」を定め、各種施策を展開してきているところです。

このような中、貴学が構想されている「地域創生科学研究科（修士課程）」（仮称）は、人口減少に伴う労働力不足などの21世紀の諸課題を解決し、持続可能で豊かな地域社会を創生するため、社会デザインとイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身につけるとともに、これまでの研究科の垣根を越えて幅広い思考力と実践力を備え、主体的に行動できる高度専門職業人の育成を目指すものとお聞きしており、誠に時宜を得たものであります。

さらに、大学院の充実と魅力向上は、多様な人材を呼び込み、これを育成することで地域の活力向上へつながっていくと考えられることから、この度の新大学院構想は、とちぎ創生の実現に大変重要であると認識しており、県としましては、県内外の多くの若者が貴学において学び、修了後には地域に密着して活躍することを期待し、本構想を強く支持するものであります。

なお、教育研究の実施に当たっては、貴学と本県による取組が、地域の課題を解決し、持続可能で豊かな地域社会の構築に結びつくモデルケースとなるよう、引き続き、多様な連携・協力を行って参りたいと考えております。

貴学におかれましては、県内唯一の国立大学法人として、これまで県内の産業、行政、教育にわたる幅広い分野に地域を支える優秀な人材を数多く輩出され、また、地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学等の各分野において県勢発展に様々な御協力をいただいて参りました。今回の大学院の充実強化により、これまで以上に地域貢献に御尽力いただくことを期待し、貴学の新大学院構想が早期に実現されることを強く要望いたします。



官政審第476-1号

平成30年2月23日

国立大学法人宇都宮大学長 石田朋靖様

宇都宮市長 佐藤栄  
(総合政策部政策審議室扱)



### 宇都宮市の地域振興の推進に関する要望書

日頃より、本市の地域振興に対し、様々なご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本市では、平成30年度からスタートする「第6次総合計画」におきまして、まちづくりの重点課題である、様々な分野を担う人材の育成・確保や、地域経済を支える産業の活性化、環境調和型社会の構築などに向けて、「人づくり」と「まちづくり」を一体的に進めることで、本市の掲げる「未来都市」の実現を目指しております。その推進にあたりましては、持続可能な地域振興を多角的に担える人材の確保や、産学官が連携し研究開発を進めることで産業の競争力を高めていくことが大変重要であると認識しております。

本市では、超高齢化・人口減少・災害・地域環境問題・グローバル化などに直面する中、持続可能な魅力ある地域づくりに取り組んでおりますが、このたび、貴学において構想されている「地域創生科学研究科(修士課程)」(仮称)は、まさに本市の地域創生を推進する上で、時宜を得たものであり、本構想を全面的に支持するものであります。

この新たに設置される「地域創生科学研究科」におきまして、持続可能で豊かな地域社会の創生に向けた、社会デザインとイノベーションの創造につながる高度な専門性や技術を実践的に学べることは、学生にとりましても大変魅力的なものであると考えます。また、習得した知識や技術を活かし本市における様々な分野で活躍する人材の輩出につながることはもとより、今後ますます本市をフィールドに実践的な研究開発が促進されることに、大きな期待を寄せるものであります。

本市にとりましても是非早期にお取り組みいただきたく、教育研究の実施にあたりましては、可能な限り必要な連携・協力を行って参りたいと考えております。

つきましては、これまでも県内唯一の国立大学として学長をはじめ地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学等の各分野において、多くのご協力をいただいているところでありますが、本市へのご貢献を一層積極的にお進めいただくとともに、新大学院構想が早期に実現されることを強く要望いたします。

末筆ではありますが、貴学の益々のご発展をご祈念申し上げます。



平成30年 3月 16日

国立大学法人宇都宮大  
学長 石田 朋 靖 様

公益社団法人栃木県経済同友会  
筆頭代表理事 小林 辰 興



### 本県経済産業界の振興強化に関する要望書

日頃から、本県経済産業界に対し様々な御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、当会におきましては、地域創生への取組は最重要課題であり、持続可能な地域振興を多角的に担える人材確保が重要かつ喫緊の課題であると認識しています。

このたび、貴学において構想されている「地域創生科学研究科（修士課程）」（仮称）は、21世紀の課題を解決して、持続可能な豊かな地域社会の創生に対して、社会デザインとイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的な幅広い思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人の育成を目指すものであり、まさに本県の地域創生を推進する上で待望の構想であります。

当会においても超高齢化・人口減少・災害・地域環境問題・グローバル化などに直面する中、持続可能な魅力ある地域づくりに取り組んでおりますが、従来の分野にとらわれない俯瞰的視野から実践的な行動力を持った人材を輩出され、本県行政・経済界等に還元されることは、当会にとりましても是非早期にお取り組みいただきたく、本構想を全面的に支持いたします。

また、教育研究の実施に当たっては、貴学大学院学生の受け入れや実践的講義への講師派遣等、可能な限り必要な連携・協力をして参る所存です。

さらに、貴学による新しい地域づくりの取組が国内の他の産業界が抱える地域振興策のモデルケースとなり地域経済産業の活性化に資するものと大きな期待を寄せるものであります。

つきましては、これまでも県内唯一の国立大学として学長をはじめ地域デザイン科学、国際学、教育学、工学、農学等の各分野において多くの御協力をいただいているところですが、本県経済産業界への御貢献を一層積極的にお進めいただくとともに、新大学院構想が早期に実現されることを強く要望いたします。

末筆ではありますが、貴学の益々の御発展を御祈念申し上げます。





# 研究科の構成と学位

【地域の変革をリードする「知の拠点」形成】



## 地域創生科学研究科 (入学定員 335人)

社会デザイン科学専攻 (入学定員 77人)		
コミュニティデザイン学プログラム	(8)	修士 (学術)
農業・農村経済学プログラム		修士 (農学)
建築学プログラム	(38)	修士 (工学)
土木工学プログラム		修士 (工学)
農業土木学プログラム		修士 (農学)
グローバル・エリアスタディーズプログラム	(26)	修士 (国際学)
多文化共生学プログラム		修士 (学術)
地域人間発達支援学プログラム	(5)	修士 (学術)

<旧学位>
※新規
修士 (農学)
修士 (工学)
修士 (工学)
修士 (農学)
修士 (国際学)
修士 (国際学), 修士 (教育学)
修士 (教育学)

工農総合科学専攻 (入学定員 258人)		
光工学プログラム	(54)	修士 (光工学)
分子農学プログラム		修士 (分子農学)
物質環境化学プログラム	(57)	修士 (工学)
農芸化学プログラム		修士 (農学)
機械知能工学プログラム	(47)	修士 (工学)
情報電気電子システム工学プログラム	(82)	修士 (工学)
農業生産環境保全学プログラム	(18)	修士 (農学)
森林生産保全学プログラム		修士 (農学)

<旧学位>
修士 (工学)
修士 (農学)
修士 (工学)
修士 (農学)
修士 (工学)
修士 (工学)
修士 (農学)
修士 (農学)

学生定員は専攻を単位として管理する。学位プログラムの定員 (括弧内の数値) は目安としての標準定員とする

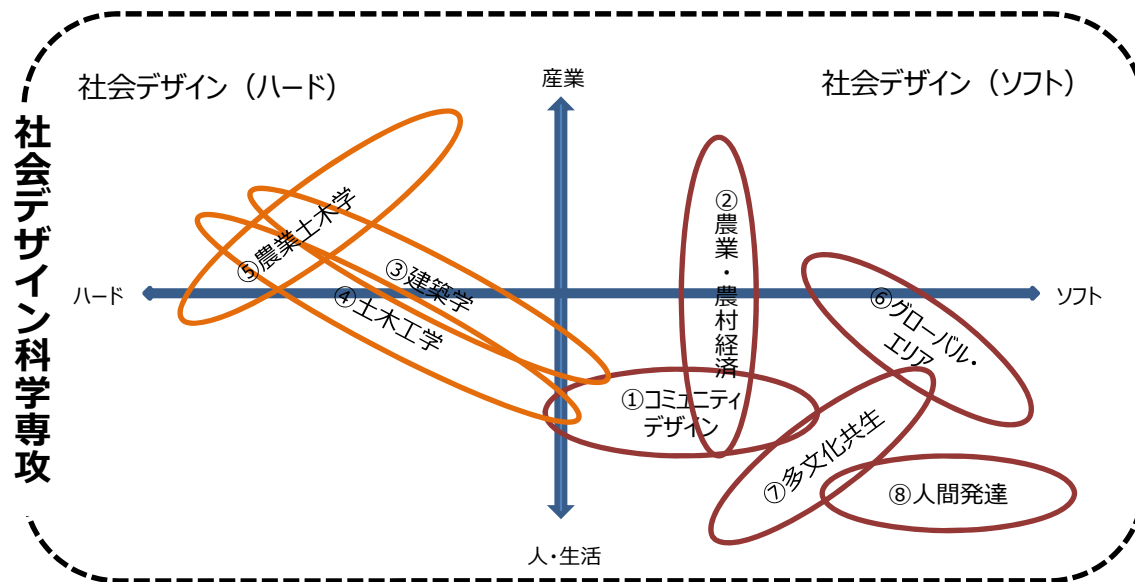
# 地域創生科学研究科：社会デザイン科学専攻・・・学位プログラム



21世紀の課題に対して，地域社会のソフトウェアやハードウェアのデザインの創造から，持続可能で豊かな地域社会の創生に貢献する分野として，社会デザイン科学専攻を設けた

社会デザイン科学専攻の目的：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために，地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ，社会制度，文化，政策等）やハードウェア（建築，国土保全，環境等）のデザインについて教育研究を推進

教育資源を活用して21世紀の課題を解決する分野，且つ，専門性を保証し学位を授与する単位として8つの学位プログラムを配置した。



●8つの学位プログラムは重なり合いながら専門性を保って，全体として社会デザインの創造から地域創生に寄与している。このことは，「境界・学際領域科目」，「専門科目」の配置に結びついている。

①「コミュニティデザイン学プログラム」：21世紀の課題に対して，コミュニティはリスク管理，防災など多様な場面においてその役割を高めており，コミュニティ，社会制度，政策等のソフトウェアの在り方を教育研究し学位の専門性を担保する分野。

②「農業・農村経済学プログラム」：地方や発展途上国において主要産業である農業・農村に関する，社会制度，政策などのソフトウェアの在り方を教育研究し専門性を担保する分野。

③「建築学プログラム」：地域社会のハードウェアに関連して，建築や環境等のデザインについて教育研究し専門性を担保する分野。

④「土木工学プログラム」：国土保全や環境等のデザインについて教育研究し専門性を担保する分野。

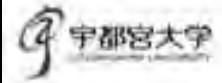
⑤「農業土木学プログラム」：農業土木や環境等のデザインについて教育研究し専門性を担保する分野。

⑥「グローバル・エリアスタディーズプログラム」：21世紀の地域社会は急速にグローバル化が進んでおり，グローバル化に関連した社会制度や政策等のソフトウェアの在り方を教育研究し学位の専門性を担保する分野。

⑦「多文化共生学プログラム」：21世紀の地域社会のグローバル化は，多様な民族・言語・文化等の交わりを強めており，グローバルな視点から，多文化共生に関する社会制度，文化，政策等のソフトウェア在り方を教育研究し学位の専門性を担保する分野。

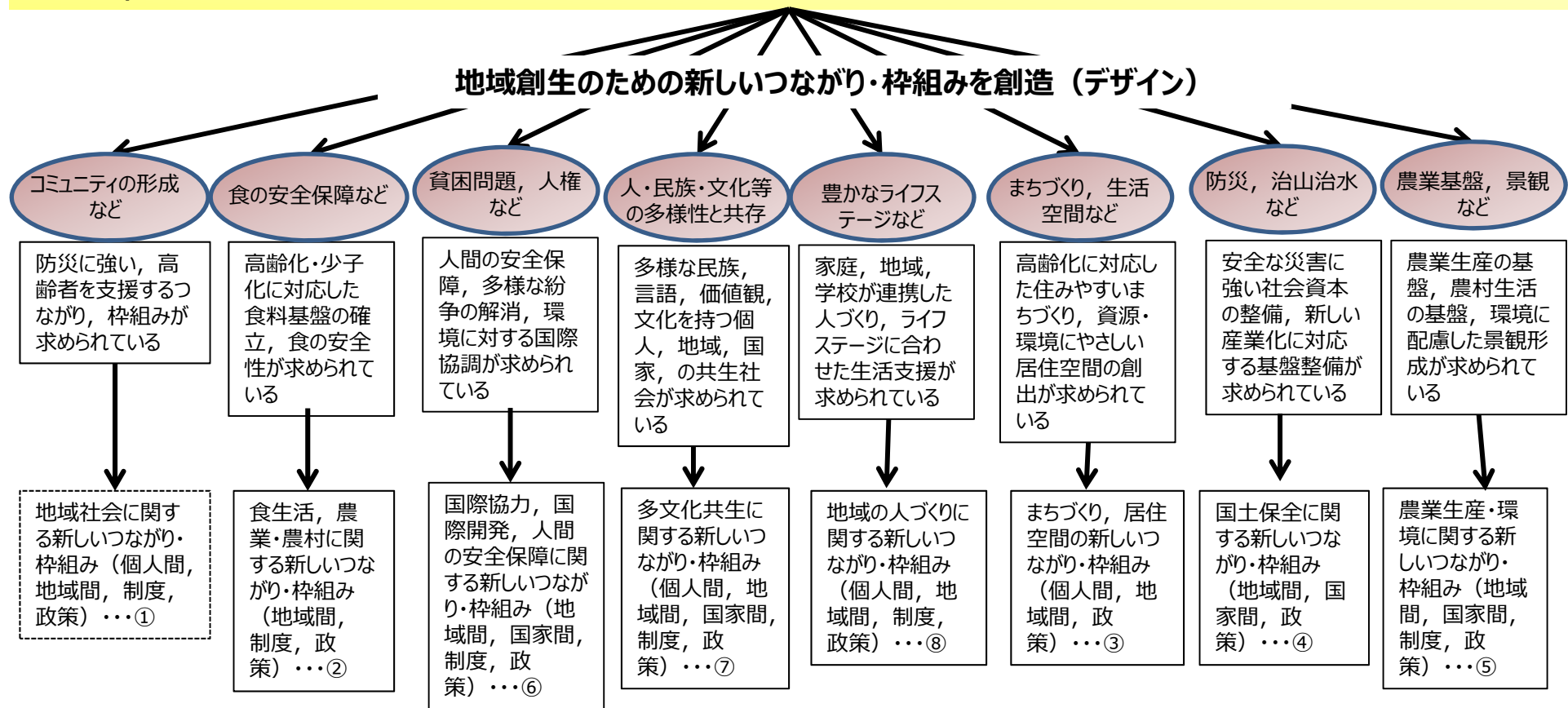
⑧「地域人間発達支援学プログラム」：21世紀の地域社会の少子高齢化等は，人間発達に関して多様な社会問題を生起させており，人間発達を支援する視点から，コミュニティ，社会制度，政策等のソフトウェアの在り方を教育研究し学位の専門性を担保する分野。

# 社会デザイン科学専攻: 8学位プログラムの必要性



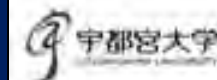
**社会デザイン科学専攻の目的:** 21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために、地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインについて教育研究を推進

課題解決のためには、個人間・地域間・国家間の結びつき、社会制度や政策、倫理観や価値観の人格形成、などが深く関わっており、従来の古い枠組みでなく、課題を解決するための新しいつながり・枠組みを創造（デザイン）する力を養成する必要がある。(社会デザインの必要性)



**持続可能な豊かな地域社会の創生に関する多くの分野をカバーしている（専攻の目的を達成できる学位プログラム構成）**

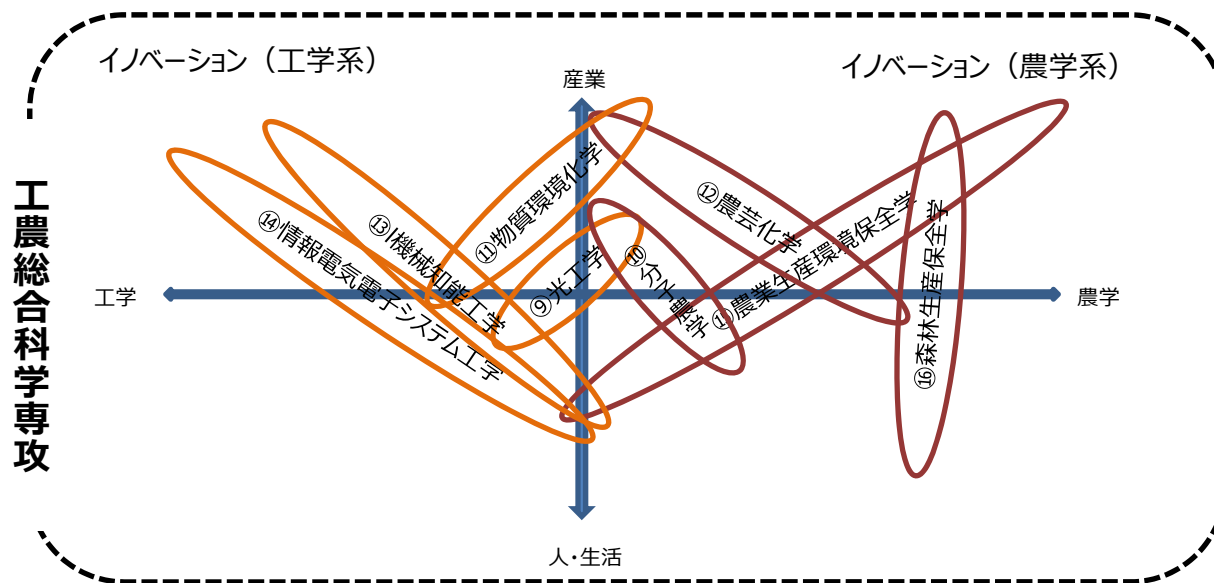
# 地域創生科学研究科：工農総合科学専攻・・・学位プログラム



21世紀の課題に対して、生活の質や産業の発展を支えるイノベーションの創造から、持続可能で豊かな地域社会の創生に貢献する分野として、工農総合科学専攻を設けた

**工農総合科学専攻の目的：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料、農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進

**教育資源を活用して21世紀の課題を解決する分野、且つ、専門性を保証し学位を授与する単位として8つの学位プログラムを配置した。**

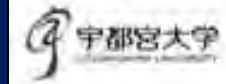


●8つの学位プログラムは重なり合いながら専門性を保って、全体として社会デザインの創造から地域創生に寄与している。このことは、「境界・学際領域科目」、「専門科目」の配置に結びついている。

- ⑨「光工学プログラム」：広く世界の先端研究を視野に入れて、光工学の先端技術の創造・発展を教育研究し学位の専門性を保証する分野。
- ⑩「分子農学プログラム」：広く世界の先端研究を視野に入れて、生命・食糧・環境を分子レベルから構造、機能、生成等について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑪「物質環境化学プログラム」：物質化学を基盤に、主に工業生産のマクロレベルの化学技術について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑫「農芸化学プログラム」：生命化学を基盤に、主に微生物利用等のミクロレベルの化学技術について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑬「機械知能工学プログラム」：あらゆる産業の基幹技術である機械工学を基盤に、電子・制御等との境界領域も視野に入れて、機械技術の高度化・知能化について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑭「情報電気電子システム工学プログラム」：電気・電子分野と情報・通信分野を再編することによって、「ヒト」と「モノ」をつなぐ先端システムの工学技術について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑮「農業生産環境保全学プログラム」：農学における生物生産、農業環境工学の分野を基盤にして、食料・農業産業、環境を支える先端農学について教育研究し専門性を保証する分野。
- ⑯「森林生産保全学プログラム」：森林科学を基盤にして、林業、森林環境等を支える先端分野について教育研究し専門性を保証する分野。

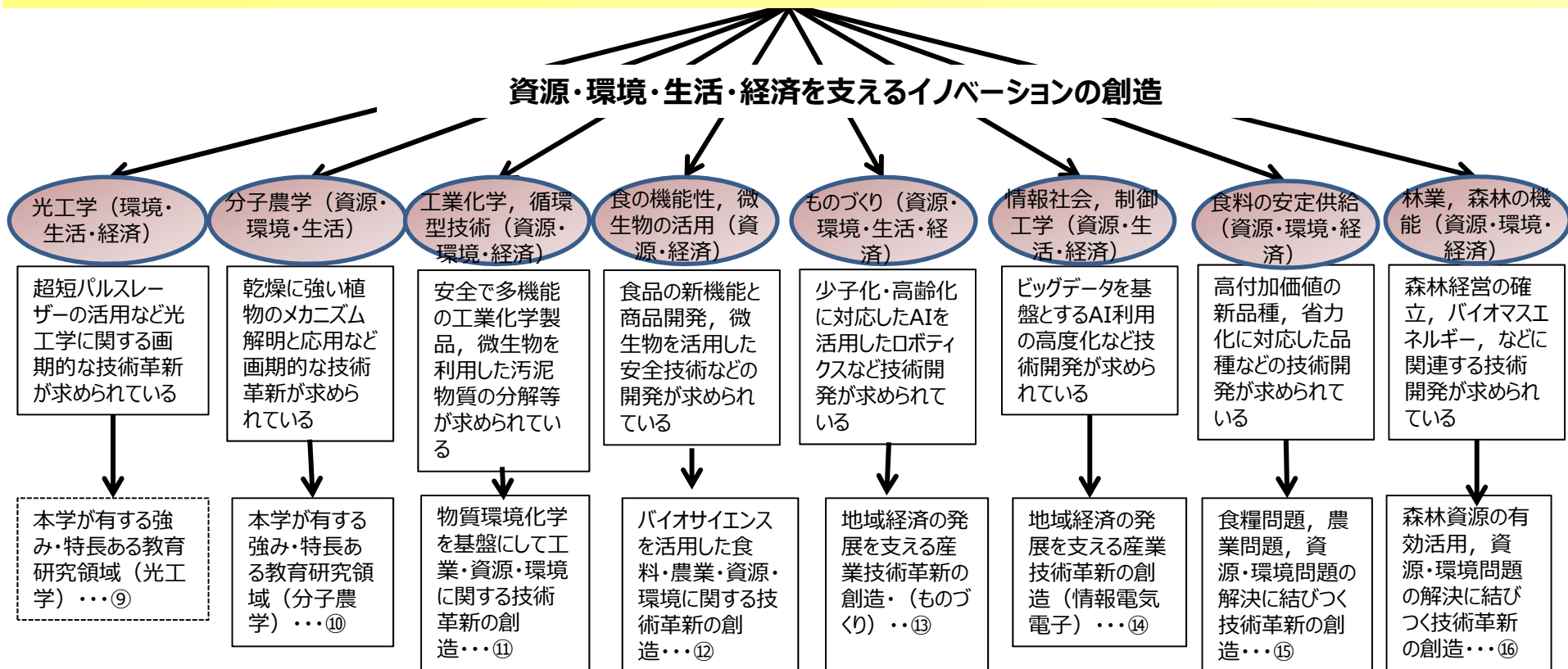


# 工農総合科学専攻：8学位プログラムの必要性



**工農総合科学専攻の目的：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を形成するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料、農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進

課題の解決のためには、新しい発想・着眼から、生活支援や地域の経済成長、資源・環境問題などの人々の日常生活の質を向上させる技術の開発や、経済のパイを広げる技術開発など、資源・環境・生活・経済を支えるイノベーションを創造する力を養成する必要がある。(イノベーションの必要性)



**持続可能な豊かな地域社会の創生に関する多くの分野をカバーしている (専攻の目的を達成できる学位プログラム構成)**

研究科・専攻	ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)
地域創生科学研究科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な豊かな地域社会の創生を支える社会デザインとイノベーションに関する高度な専門知識・技術を修得</li> <li>○学際的な幅広い思考力と実践力を修得</li> <li>○3C精神 (Challenge, Change, Contribution) +1 (Creation: 創造的思考力・実践力) を基礎として、主体的な行動力を修得</li> <li>○多面的な連携が実践できるための俯瞰力、協働性やコミュニケーション能力を修得</li> <li>○倫理観を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程の基本構成を統一化</li> <li>○21世紀の高度な「科学リテラシー」として学際的思考力と実践力の基礎を養成するために、共通科目 (8単位) を配置</li> <li>○学位に関連する高度な専門知識・技術を修得するために、プログラム科目 (22単位) を配置</li> <li>○高度な学際的思考力と実践力を養成するための科目配置と指導体制</li> <li>○シナジー効果をもたらすカリキュラム間のつながり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学修と研究に必要な基礎学力を有する人</li> <li>○創造的思考力と主体的な行動力を持って、新しい領域に意欲的に挑戦しようとする意欲を持つ人</li> <li>○専門的知識・技術と実践力を身に付けて、地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	学術 農学 工学 国際学 光工学 分子農学
専攻	社会デザイン科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会デザインに関するプログラム科目として、ソフトウェアやハードウェアの高度な専門知識・技術を修得するための科目を配置</li> <li>○社会デザインに関して、学際的な思考力を養成するために、境界領域に関する科目等を配置</li> <li>○社会デザインに関する実践力を養成するために、インターンシップや学内外の研究者・実務者等と連携した科目等を配置</li> <li>○先端的な研究能力及び研究成果を社会に公表・応用するための情報発信力と倫理観を養成する科目を配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な人々が共生し持続可能な人間社会や社会環境のデザインに関する学修と研究に必要な基礎学力を有する人</li> <li>○社会デザインに関する分野の専門能力を高めながら、創造的な能力を身に付けたい人</li> <li>○社会デザインを通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	学術 農学 工学 国際学
	工農総合科学専攻	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な豊かな地域社会の創生を支えるイノベーションの創造や関連する課題を解決するために、工学系や農学系の高度な専門知識・技術を修得</li> <li>○イノベーションに関して、自主性と独創性の高い創造を実現するための学際的な思考力と実践力を修得</li> <li>○イノベーションに関して、多様な人々の協働及び学際的な連携を推進するための情報発信力とコミュニケーション能力を修得</li> <li>○イノベーションに関する高度専門職業人としての倫理観を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イノベーションに関する学修と研究に必要な自然科学等の基礎学力を有する人</li> <li>○イノベーションに関する工学分野・農学分野の専門能力を高めながら、創造的な能力を身に付けたい人</li> <li>○イノベーションを通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	光工学 分子農学 工学 農学

**社会デザイン科学専攻：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
社会デザイン科学専攻	まちづくり（社会システム）の観点から、都市農村におけるソフトウェア（コミュニティ、社会制度、政策等）のデザインについて教育研究	<p>コミュニティデザイン学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の社会システム、資源、課題等を高度かつ学際的に理解する能力を修得</li> <li>○急速な社会の変容や多様化、複雑化する地域課題に学際的な視点から向き合い、地域社会をより豊かにし、持続可能にするために求められるコミュニティデザインを実現する能力を修得</li> <li>○コミュニティにおける様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを、深い理解とともに、適用する能力を修得</li> <li>○コミュニティの多様な主体による現場の実践知を学術的に分析し、現場に還す能力を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティをデザインするために必要不可欠な、学術理論を学際的な視点から高度に理解するための科目を配置</li> <li>○コミュニティにおける多様な実践を学際的な視点から問い直し、その知見を現場に還して展開するための科目を配置</li> <li>○コミュニティを対象とした応用研究分野における学説や、学術研究の方法論に関する科目を配置</li> <li>○専門科目を通じて修得された能力を高度な次元で統合し、多様化するコミュニティにおけるテーマに向き合い、現実的な問題解決の方法と理論について実践知の考察を通して修得する特別演習・コースワークを配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティデザイン学を学修するために必要な政策科学、まちづくり、生活文化などの基礎学力を有する人</li> <li>○コミュニティの現場に目を向け、現場の実践から学び、新しい課題の解決に挑戦する意欲を持つ人</li> <li>○コミュニティデザイン学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	学術 (新規)	公務員（行政職）、地域貢献型企業、地域密着型企業、社会福祉関連法人、JA、食品開発加工業、シンクタンク、コンサルタント、NPO法人、大学院博士後期課程進学など
	農業・農村経済学プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食料・農業・農村に関する制度・政策等の在り方を解明するのに必要不可欠な学術理論を高度かつ学際的に理解する能力を修得</li> <li>○多様化する食料・農業・農村の諸問題に学際的な視点から向き合い、健康で豊かな国民生活や持続可能な社会に寄与する新しい食料・農業・農村の発展に貢献する能力を修得</li> <li>○食料・農業・農村に関する様々なテーマに対して、適切な分析アプローチを、深い理解とともに、適用する能力を修得</li> <li>○食料・農業・農村の多様な主体による現場の実践知を学術的に分析し、地域の現場に還す能力を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「農」と「食」に関する国内外の諸問題を多面的・総合的に捉え直すとともに、新しい食料・農業・農村をデザインするために必要不可欠な学術理論を高度に理解するための科目を配置</li> <li>○食料・農業・農村の現場における豊かな知恵や実践を学際的な視点から問い直し、その知見を現場に還して展開するための科目を配置</li> <li>○食料・農業・農村を対象とした応用研究分野における学説や、学術研究の方法論に関する科目を配置</li> <li>○専門科目を通じて修得された能力を高度な次元で統合し、多様化する地域社会におけるテーマに向き合い、現実的な問題解決の方法と理論について実践知の考察を通して修得する特別演習・コースワークを配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業・農村経済学を学修するために必要な社会科学（経済学、社会学、歴史学など）の基礎学力を有する人</li> <li>○高度な論理的思考能力と現実社会の中から積極的に学ぼうとする姿勢を持って、食料・農業・農村に関する新しい課題の解決に挑戦する意欲を持つ人</li> <li>○農業・農村経済学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	農学	公務員（農林水産省及び地方公共団体）、農業生産者、農業関連団体、JA、農業関連産業、食品関連産業、金融機関、大学院博士後期課程進学など



**社会デザイン科学専攻：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
社会デザイン科学専攻	工学技術を基盤とするまちづくり（建築、土木、環境）のハードウェアのデザインについて教育研究	建築学プログラム ○地球環境・地域社会の変化に適応した良好な建築の創生あるいは再創生に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、建築に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、建築・地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、建築学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力、コミュニケーション能力、キャリア開発能力を修得	○建築学・土木工学・農業土木学を基礎として、ローカルかつグローバルな視野で地域デザインを工学的に捉え実践するための境界・学際領域科目を配置 ○建築学分野における先端知識の修得及び新技术の創造、高度な建築デザイン能力養成のための専門科目を配置 ○実務的問題への対応力及びキャリア開発能力を育成するために、国内外でのインターンシップ・実習・調査などを単位化	○建築学を学修するために必要な建築構造学、建築計画学、建築環境工学、建築材料学などの基礎学力を有する人 ○地球環境・地域社会の変化と建築との関わりを学び、ローカルからグローバルに至る多様な視点で新たな創造へ挑戦する意欲のある人 ○建築学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人	工学	建設会社、建築会社、設計事務所、住宅メーカー、建築材料メーカー、国家公務員・地方公務員（技術職）、公益企業（ガス、電力）、大学院博士後期課程進学など
	土木工学プログラム	○地球環境の変化に適応した良好な社会基盤の整備に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、社会基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、土木工学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力、コミュニケーション能力、キャリア開発能力を修得	○建築学・土木工学・農業土木学を基礎として、ローカルかつグローバルな視野で地域デザインを工学的に捉え実践するための境界・学際領域科目を配置 ○土木工学分野における先端知識の修得及び新技术の創造のための専門科目を配置 ○実務的問題への対応力及びキャリア開発能力を育成するために、国内外でのインターンシップ・実習・調査などを単位化	○土木工学を学修するために必要な構造工学、水工学、地盤工学、土木計画学、土木材料学等に関する基礎学力を有する人 ○地球環境・地域社会の変化と社会基盤との関わりを学び、ローカルからグローバルに至る多様な視点で新たな創造へ挑戦する意欲のある人 ○土木工学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人	工学	建設会社、建設・環境コンサルタント、建設材料・橋梁メーカー、国家・地方公務員（技術職）、公益企業（鉄道、空港、高速道路、ガス、電力、通信）、大学院博士後期課程進学など
	農業土木学プログラム	○地球環境の変化に適応した良好な農業農村基盤の整備に関わる高度な工学的能力を修得 ○先端的な専門知識をもとに、地域の社会及び自然環境の変化を考慮して、農業農村基盤に関わる実務的問題をローカルかつグローバルな視点で分析・解決し、地域をデザインする能力を修得 ○社会のニーズや自然環境の変化をとらえ、農業土木学の新技术を創造する能力を修得 ○国際社会でも通用する技術展開能力、コミュニケーション能力、キャリア開発能力を修得	○建築学・土木工学・農業土木学を基礎として、ローカルかつグローバルな視野で地域デザインを工学的に捉え実践するための境界・学際領域科目を配置 ○農業土木学分野における先端知識の修得及び新技术の創造のための専門科目を配置 ○実務的問題への対応力及びキャリア開発能力を育成するために、国内外でのインターンシップ・実習・調査などを単位化	○農業土木学を学修するために必要な土、水、農村環境に関する基礎学力を有する人 ○地球環境・地域社会の変化と農業農村基盤との関わりを学び、ローカルからグローバルに至る多様な視点で新たな創造へ挑戦する意欲のある人 ○農業土木学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人	農学	国家公務員・地方公務員（技術職）、農業土木・土木コンサルタント、環境コンサルタント、建設会社、建設材料メーカー、公益企業（鉄道、電力）、大学院博士後期課程進学など



**社会デザイン科学専攻：**21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
社会デザイン科学専攻	グローバル社会の観点から、国際開発・国際協力等や、多文化共生に関するデザインについて教育研究	グローバル・エリアスタディーズプログラム ○国際開発や国際協力等に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、グローバルな諸問題を理解し解決する能力を修得 ○世界各地の政治・社会の多様性等に関する高度な教養を身に付けて、課題に対する学際的な思考能力を修得 ○日本及び世界各国の諸問題・諸課題に対して、グローバルな観点から問題解決を実践するために具体的な情報収集、調査・分析する能力を修得 ○グローバルな実務に対応可能な企画・提案能力とコミュニケーション能力を修得	○地域の多様性を理解するためのエリアスタディーズ科目群と、国家間・国家-社会・国家と非国家主体関係を普遍的な視座から理解するためのグローバル・スタディーズ科目群を配置 ○社会開発や国際的な政治・経済現象など、多様性に富んだグローバルな空間で発生する諸問題に取り組むため、2科目群を有機的に連携させる ○グローバルな諸問題の調査及びその解決のための実務能力の養成のために、フィールド調査に従事する臨地研究科目を配置	○国際学を学修するために必要な国際協力論、政治学、経済学、地域研究等の基礎学力を有する人 ○グローバルな諸問題に関心を持ち、学際的な幅広い教養と問題解決に必要とされる高度な実践力を身に付けて、新しい課題の解決に挑戦する意欲のある人 ○グローバル・エリアスタディを通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人	国際学	グローバル化や国際化に対応する部門を持つ政府機関・自治体・公益団体・教育機関・民間企業・市民組織・大学院博士後期課程進学など
	多文化共生学プログラム	○多文化共生学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、世界様々な地域の文化的・社会的問題を理解し解決する能力を修得 ○多文化共生に関する諸課題について、調査、情報収集、分析する能力を修得 ○多文化共生に関する諸活動において活用できる学際的な思考力及び異文化間コミュニケーション能力を修得 ○複数の言語で情報を収集・発信するスキル・リテラシーを修得	○異文化間の摩擦や交流の歴史と現状について、世界様々な地域の事例から学際的に学ぶとともに、人権と文化の多様性を尊重する多文化共生とは何かを探究するための必修・選択科目を配置 ○多文化社会における主体的行動力、コミュニケーション能力、課題解決力を向上させるための実践的科目を配置 ○多文化社会における実践力涵養のために複数の言語で情報収集・発信に関わるスキル・リテラシーを強化する専門科目を配置	○多文化共生学を学修するために必要な社会学、文学・文化研究、心理学、言語学、人権論等の基礎学力を有する人 ○文化、言語、思想、宗教、価値観、立場の異なる人々が共に生きる社会の形成について深く学び、新しい課題の解決に挑戦する意欲のある人 ○多文化共生学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人	学術 (新規)	旅行・観光関連をはじめとするサービス業、自治体職員、言語コミュニケーション能力を活かした職種（日本語能力を活かした就職＝留学生）、専修免許状を持った中学・高校の英語教員、国内外の学校・企業での日本語指導者、大学院博士後期課程進学など

**社会デザイン科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、地域社会に関するソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
社会デザイン科学専攻	人・ヒトの思考、生活、健康等の観点から、人間の発達・成長の支援に関するデザインについて教育研究 地域人間発達支援学プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間発達支援学に関する高度な専門知識・技術を身に付けて、社会的課題を理解し解決する能力を修得</li> <li>○多様な地域や家庭で育つ子どもや青少年の発達・成長を支援するのに必要な、学際的な思考力や課題の分析能力を修得</li> <li>○学校や地域の教育・生活・環境・医療・芸術等の関係機関や団体と連携し支援するのに必要な協働力を修得</li> <li>○地域の人間発達支援の実践者として求められる高度なリーダーシップやコミュニケーション能力を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人間発達支援の専門家として必要な研究・実践倫理、分野横断的に共通する探求課題やリテラシーを理解し、基本となるスキルを身に付けるための必修科目を配置</li> <li>○人間の内面的諸相とその発達・成長及び地域社会における課題との関連を学ぶための基盤科目を配置</li> <li>○各ライフステージにおける包摂的で多様な学びの必要性を理解し、地域社会での実践スキルを身につけるための応用科目を配置</li> <li>○境界領域との学際的思考力やコミュニケーション力を身に付けるため、領域を越えた主指導・副指導体制で研究を行う演習科目を配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域人間発達支援学を学修するために必要な教育・心理学、健康・生活科学、言語・芸術学などの基礎学力を有する人</li> <li>○創造的思考力と主体的な行動力を持ち、人間発達支援に関する新しい課題の解決に挑戦する意欲のある人</li> <li>○人間発達支援学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲のある人</li> </ul>	学術 (新規)	教育関連産業、子ども支援や教育、生活・健康、芸術等の分野に強みをもつ地方公務員や公的法人職員、NPO職員、教員（入学時に免許を保有する者）、健康教育・ヘルスプロモーション等に関する研究者（修士取得後の博士後期課程への進学）、医療関係者（看護師、理学療法士などのメディカルスタッフ）など

**工農総合科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料・農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
工農総合科学専攻	光工学プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな視野を持ち、21世紀の光工学の諸問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な光工学に関する知識・技術を修得</li> <li>○最先端光工学の基盤となる基礎知識・基礎技術を身に付け、それを工学的に応用できる実践的能力を修得</li> <li>○企業等に就職して光学技術の創造・発展に大きく貢献する実践的な技術者・研究者となる能力を修得及び博士後期課程へ進学して最先端光工学の発展を担う人材となる能力を修得</li> <li>○光工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○光工学と分子農学の分野横断的な創造的実践力を養成するために、境界・学際領域科目を配置</li> <li>○光工学に関する基本的な専門知識を修得するために光学に関する基礎必修科目を配置（「基礎光学」、「光学基盤技術」など）</li> <li>○光工学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置</li> <li>○留学生の受入の促進及びグローバル化に対応するためにプログラム科目を英語で対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○光工学を学修するために必要な数学、物理学や光学に関する基礎学力を有する人</li> <li>○光工学を基盤として、境界領域への関心も高く、創造的・独創的な課題に挑戦する意欲を持つ人</li> <li>○光工学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	光工学 (新規)	光学・精密機器、医療機器、精密加工、半導体関係、電気電子機器関連、自動車及び車載機器、光通信、画像情報関係、大学院博士後期課程進学など
	分子農学プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな視野を持ち、21世紀の生命・食糧・環境問題を解決し、産業の発展に貢献するために必要な高度な分子農学に関する知識・技術を修得</li> <li>○遺伝情報及び、その発現機構を解析するために必要な最先端の解析技術を修得</li> <li>○遺伝情報の解析技術と、その発現制御機構を理解し有用な分子を農林水産分野で活用することにより新しい価値を創造できる能力を修得</li> <li>○分子農学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分子農学と光工学の分野横断的な創造的実践力を養成するために、境界・学際領域科目を配置</li> <li>○分子農学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置</li> <li>○分子農学に関する先端解析技術を修得するためにアクティブ・ラーニング型科目を配置</li> <li>○留学生の受入の促進及びグローバル化に対応するためにプログラム科目を英語で対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分子農学を学修するために必要な分子生物学、遺伝学、生理学などの基礎学力を有する人</li> <li>○生命現象を分子レベルで理解するとともに、農学や生命科学の諸課題と分子解析技術について強い関心を持ち、農林水産分野で活用することに挑戦する意欲を持つ人</li> <li>○分子農学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人</li> </ul>	分子農学 (新規)	国家公務員、地方公務員、高校教員、製造業の研究職、農業・食品関連サービス業、卸・小売業、生殖補助医療胚培養士、大学院博士後期課程進学など

**工農総合科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料・農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
工農総合科学専攻	物質化学と生命化学を基盤に、工業生産のマクロレベルから微生物利用等のミクロレベルまで幅広い化学技術について教育研究	物質環境化学プログラム ○21世紀の化学技術に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、物質化学や工学の高度な知識と技術を修得 ○物質環境化学の専門知識を高機能性成分開発や環境保全技術に活用できる主体的な行動力を修得 ○物質化学に加え生命化学的な視座を持った分野横断的な創造的実践力をもって応用開発に取り組むことのできる能力を修得 ○物質環境化学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○物質化学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置 ○物質化学と生命化学の分野横断的な創造的実践力を養成するために、境界・学際領域科目を配置 ○物質化学の創造的実践に必要な実験手法・技術を身に付けるための科目を配置	○物質環境化学を学修するために必要な物理化学、有機化学、無機化学などの基礎学力を有する人 ○化学を中心とする製造業において、機能性物質開発や環境問題の解決に挑戦する意欲を持つ人 ○物質化学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	工学	化学系（材料、エネルギー、製薬、食品、環境など）、自動車関連、電機、情報通信、公務員、大学院博士後期課程進学など
	農芸化学プログラム	○21世紀の農芸化学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、生命化学や農学の高度な知識と技術を修得 ○生物資源に広く関連した化合物の構造と反応性や、生物との関わりを中心とした機能性に関する知識や実験手法・技術を修得 ○生命化学に加え化学工学的な視座を持った分野横断的な創造的実践力をもって応用開発に取り組むことのできる能力を修得 ○農芸化学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○バイオサイエンス（生命化学）に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置 ○生命化学と化学工学の分野横断的な創造的実践力を養成するために、境界・学際領域科目を配置 ○生命化学の創造的実践に必要な実験手法・技術を身に付けるための科目を配置	○農芸化学を学修するために必要となる、化合物や生理活性物質の特性や機能性に関する化学的・生化学的な基礎学力を有する人 ○広く食品、医薬品、化粧品などの産業や公共機関等において、機能性物質開発や環境問題の解決に挑戦する意欲を持つ人 ○生命化学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	農学	食品関連企業、製薬関連企業、公務員、大学院博士後期課程進学など



**工農総合科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料・農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

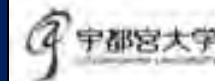
専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
工農総合科学専攻	あらゆる産業の基幹技術である機械工学を基盤に、電子・制御等との境界領域も視野に入れて、機械技術の高度化・知能化について教育研究	機械知能工学プログラム ○21世紀の機械知能工学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、機械知能工学の高度な知識・技術を修得 ○電子・制御等との分野横断から、複数分野の技術を活用した技術の高度化、機械の知能化を実践する能力を修得 ○課題解決に即したものづくりが実践できる能力を修得 ○機械知能工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○機械知能工学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置 ○機械・電子・制御・数学の融合による高度なメカトロニクスに関する知識と技術を養成するための融合的専門科目を配置 ○機械知能工学の創造的実践に必要な知識・技術を身に付けるための科目を配置	○機械知能工学を学修するために必要な熱力学、流体工学、機械力学、材料力学、数学などの基礎学力を有する人 ○機械知能工学や「ものづくり」に関心を持ち、創造的・独創的に思考しながら、研究課題や実践的・応用的ものづくりに挑戦することに意欲を持つ人 ○機械知能工学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	工学	自動車、航空機、鉄道を始めとする輸送機械、農業機械、建設機械などのフィールド作業機械、ロボット、医療福祉機器、マイクロ・ナノ・テクノロジー応用機械、機械・精密機械・電気製品一般、機械要素部品、電子部品、化学工業製品、食品加工、に係る研究・開発、設計・製造、大学院博士後期課程進学、公務員、教員など
	電気・電子分野と情報・通信分野を再編することによって、「ヒト」と「モノ」をつなぐ先端システムの工学技術について教育研究	情報電気電子システム工学プログラム ○21世紀の情報電気電子分野に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、情報電気電子システム工学の高度な知識・技術を修得 ○情報電気電子システム工学の基本的かつ普遍的な知識・技術を深く身に付け、第三者に伝授できる能力を修得 ○情報電気電子システムに関連する応用構想、設計、研究、製作等の過程を広い視野を持ち自律的に実践できる能力を修得 ○情報電気電子システム工学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○情報電気電子システム工学の基盤技術に関する高度な専門知識を身に付けるための基盤要素技術の科目を配置 ○情報電気電子システム工学の応用展開技術に関する高度な専門知識を身に付けるためのシステム応用技術の科目を配置 ○情報電気電子システムの創造的実践に必要な知識・技術を身に付けるための科目を配置	○情報電気電子システム工学を学修するために必要な情報数学、情報基礎理論、電磁気学、電気回路などの基礎学力を有する人 ○情報電気電子システム工学を基盤として、「ヒト」と「モノ」をつなぐ先端システムの開発に挑戦する意欲を持つ人 ○情報電気電子システム工学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	工学	電気・電子関連産業、情報・通信産業、機械メーカー、自動車など輸送機器製造、運輸産業、流通サービス、情報サービス、など産業基盤となる各種産業、大学院博士後期課程進学など

**工農総合科学専攻**：21世紀の課題を解決して持続可能な豊かな地域社会を創生するために、工学分野と農学分野に関するものづくり、食料・農林業、環境を支えるイノベーションについて教育研究を推進する。

**学位プログラムは、育成する人材像、養成する能力、それらを実現するための教育の3方針と教育課程（カリキュラムツリー）を一つの総体として、学位の専門性を保証するものである。**

専攻・教育研究領域・学位プログラム		ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	カリキュラム・ポリシー (カリキュラム方針)	アドミッション・ポリシー (求める学生像等)	学位 (修士)	想定する出口
工農総合科学専攻	農学における生物生産、農業環境工学、森林科学の分野を基盤にして、農林業産業を支える先端農学について教育研究	農業生産環境保全学プログラム ○21世紀の農学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、農業生産環境保全学の高度な知識・技術を修得 ○従来の専門領域を超える柔軟な発想と実践で培った課題解決能力で未来を拓く、省力・安定・安全な農業生産技術の開発に挑戦できる能力を修得 ○近年進歩著しいバイオテクノロジー、機器・化学分析、ICT、IoTなどの技術を活用して省力・高品質生産を実現する新たな農業に関する知識と技術を修得 ○農業生産環境保全学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○農業生産環境保全学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置 ○最新のバイオテクノロジー、機器・化学分析、ICT、IoTなどの技術を駆使した農林業技術を学ぶ「スマート農林業」、農林業生産が抱える諸問題を解決する実践力を養うために「政策課題演習」を境界・学際領域科目として配置 ○農業生産環境保全学の創造的実践に必要な知識・技術を身に付けるための科目を配置	○農業生産環境保全学を学修するために必要な生物資源科学、農業環境工学などに関する基礎学力を有する人 ○農業生産が抱える諸問題の解決に強い関心と熱意を持ち、最新のテクノロジーを農林生産の場に活用しようという意欲を持つ人 ○農業生産環境保全学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	農学	国家公務員、地方公務員、教員、JAグループ（全農・単協）、種苗・肥料・飼料関連企業、食品・環境関連企業、動物育種・繁殖関連企業、畜産物加工関連企業、植物防疫関連企業、国際協力関連団体、食品・環境分析関連企業、農業機械関連企業・団体、大学院博士後期課程進学など
	森林生産保全学プログラム	○21世紀の林学に関する諸問題を解決し、持続可能な豊かな地域社会の創生に貢献するために、森林生産保全学の高度な知識・技術を修得 ○「専門技術者・研究者」として必要な森林の管理・育成から林産物の加工・利用にいたる高度な知識を有し、森林資源の利活用を推進できる実践力を修得 ○森林に関わる諸問題に対して、その解決に向け、理論と実践に基づいた自立的な取組を遂行できる能力を修得 ○森林生産環境保全学に関する多様な場面で実践できる高度なコミュニケーション能力を修得	○森林生産保全学に関する高度な専門知識を身に付けるための科目を配置 ○最新のバイオテクノロジー、機器・化学分析、ICT、IoTなどの技術を駆使した農林業技術を学ぶ「スマート農林業」、農林業生産が抱える諸問題を解決する実践力を養うために「政策課題演習」を境界・学際領域科目として配置 ○森林生産保全学の創造的実践に必要な知識・技術を身に付けるための科目を配置	○森林生産保全学を学修するために必要な森林生産育林学、森林管理政策学、森林工学、森林生産利用学などに関する基礎学力を有する人 ○森林・林業・林産業の分野で高度な知識と研究能力を身に付け、将来は専門職業人・研究者として諸課題の解決に挑戦する意欲を持つ人 ○森林生産保全学を通じて地域社会に貢献することに強い関心と意欲を持つ人	農学	国家公務員、地方公務員、教員、国際協力関連団体、森林・林業・林産業企業・団体、コンサルタント、緑化・造園関連企業、製紙関連企業、大学院博士後期課程進学など

# 地域創生科学研究科：教育課程の基本構成・・・融合・連携の実質化



育成する人材像：持続可能な豊かな地域社会を創生するために、社会デザインやイノベーションに関する高度な専門知識・技術を身に付けて、学際的思考力と実践力を備えて主体的に行動できる高度専門職業人を育成する。

## <養成する能力：DP>

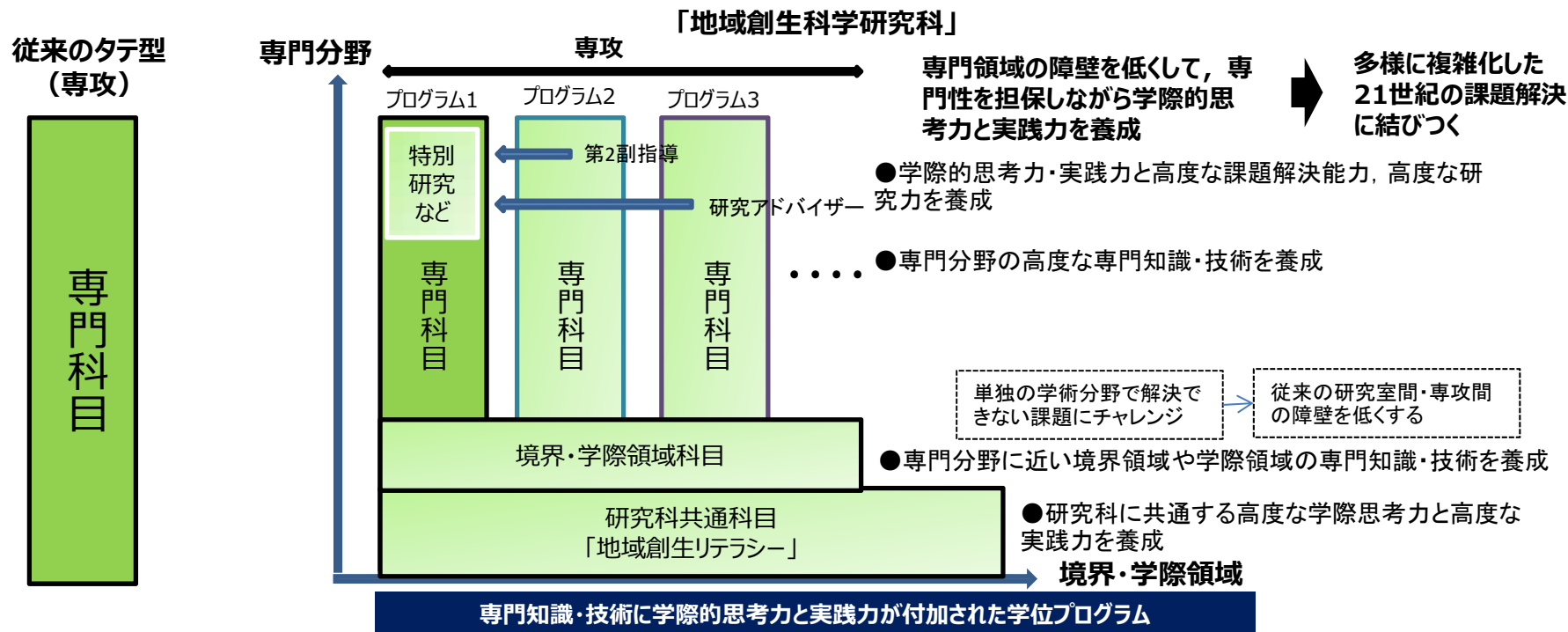
- ① 持続可能な豊かな地域社会の創生を支える社会デザインとイノベーションに関する高度な専門知識・技術を修得
- ② 学際的な幅広い思考力と実践力を修得
- ③ 3C精神（Challenge, Change, Contribution）+1（Creation：創造的思考力・実践力）を基礎として主体的な行動力を修得
- ④ 多面的な連携が実践できるための俯瞰力、協働性やコミュニケーション能力を修得
- ⑤ 倫理観を修得

## <教育課程の編成方針：CP>

- 1 教育課程の基本構成を統一化 ⇒ 研究科共通科目「地域創生リテラシー」（10単位）+「専門科目」（20単位）
- 2 21世紀の高度な「科学リテラシー」として学際的思考力と実践力を養成するために、研究科共通科目「地域創生リテラシー」を配置
- 3 学部に関連する高度な専門知識・技術を修得するために、「専門科目」を配置
- 4 高度な学際的思考力と実践力を養成するための科目配置と指導体制 ⇒ 「アカデミックコミュニケーション」、デュアル指導体制、「研究アドバイザー」
- 5 シナジー効果をもたらすカリキュラム間のつながり ⇒ 「境界・学際領域科目」を配置、FD強化

## <基本構成：専門的知識・技術の修得&学際的思考力・実践力の修得>

29



## 特色

### ①全学マネジメントと基本編成の統一：

- 全学マネジメント：「研究科代議員会」を設けて、研究科全体の観点からIRに基づいた、分野間の連携の強化、カリキュラム体系の見直しなど、点検・評価を不断に進め教育の質の向上と保証を図る。
- 学位プログラム（30単位）は、「地域創生リテラシー」（10単位）と「専門科目」（20単位）で構成される。
  - 「地域創生リテラシー」（10単位）：持続的な豊かな地域社会を創生するために必要な、学際的思考力と実践力を養成。
  - 「専門科目」（20単位）：社会デザインやイノベーションに関する専門知識・技術等を教授し、学位の専門性を保証する。

### ②学際的思考力と実践力を養成：「地域創生リテラシー」（10単位）

- 地域創生のための高度な科学リテラシーとして、学際的思考力と実践力を養成する。その構成は次のとおりである。
  - ・学際的思考力を養成（8）：「地域創生のための社会デザイン&イノベーション」（2）、「現代社会を見通す：生命と感性の科学」（1）、「グローバルな視座を養う」（1）、「アカデミックコミュニケーション」（2）、文系学生の理系科目（2）又は理系学生の文系科目（2）
  - ・実践力を養成（2）：「実践インターンシップ」、「臨地研究」、「国際インターンシップ」、「Global Management」、など

### ③学位の専門性の質を保証：「専門科目」（20単位）：

- 学術分野の科目履修（10）と研究活動・テーマに関連する「特別演習」（4）、「特別研究」（6）から、学位の専門性の質を保証する。
- 特別演習と特別研究又は実践プロジェクトは、研究活動・テーマによってその内容は学生ごとに異なるが、基本的な達成目標と必須アクティビティ（倫理観の養成）を共通化して質を保証する。

### ④多様な実践的体験学修機会：「アカデミックコミュニケーション」（2単位）

- 高度な専門知識・技術及び学際的な思考力を養成し実践力を身に付けるために、多様な研究分野や研究者・教員・実務家及び学生の研究交流の場での発表・意見交換の機会を設ける。既存の研究領域や世代を越えて研究交流を進めることが、挑戦的領域におけるアイデア等を発想する契機になるとともに、学生にとっては実践的な体験の場となる。

### ⑤境界領域・学際領域の発展：

- 専門領域の障壁を低くして境界領域・学際領域の学術を発展させるために「地域創生リテラシー」の中に多様な研究者交流による体験学修として「アカデミックコミュニケーション」を配置、境界・学際領域科目を配置、異なる学位プログラムの第2副指導教員（デュアル副指導）からの研究指導を行う。

### ⑥シナジー効果：

- 育成する人材像や養成する能力を実現するために、導入的なグループワークから研究指導まで、それぞれの授業や取組が連なって最終的に高度な実践的能力を養成する。具体的には、実践力・学際力の向上に向けて、合宿形式の集中的グループワーク → テーマ別グループワーク → 専門科目におけるアクティブ・ラーニングの活用 → 高度な次元で専門分野や境界領域・学際領域からの研究指導（デュアル副指導）を行い高度な実践力を養成する。